



山口県立総合医療センターの
機能強化等に関する調査検討会報告書
【附属資料】

令和 4 年 2 月 2 1 日

地方独立行政法人 山口県立病院機構

目次

I 外部環境分析	3
1. 人口動態	3
① 当センターの診療圏の設定	3
② 診療科別の患者居住地割合	6
③ 当センター診療圏における人口動態	8
2. 将来の疾病推計	10
① 入院医療需要の疾病推計	10
② 外来医療需要の疾病推計	16
3. 周辺医療機関における患者受療状況	18
① 山口・防府医療圏における当センターと周辺医療機関の患者受療状況	18
② 診療圏における当センターと周辺医療機関の患者受療状況	20
③ 山口県における DPC 対象医療機関(300 床以上)の患者受療状況	21
4. 医療政策	23
① 地域医療構想	23
② 診療報酬改定	25
II 内部環境分析	28
1. 当センターの収支状況	28
2. 当センターにおける入院稼働額実績と目標値	30
① 直近7ヵ年の入院稼働実績の推移	30
② 入院稼働額と KPI 指数の目標値と効果試算	31
3. 診療科別の入院稼働実績の推移と目標値	33
巻末資料（算出方法・参考データ）	62

I 外部環境分析

1. 人口動態

① 当センターの診療圏の設定

現在の当センターへの入院・外来患者の来院状況から入院・外来のそれぞれにおける診療圏を設定し、当該診療圏における将来の患者数を推計する。

(ア) 当センターの入院患者来院状況

当センターの2019年度の入院患者診療実績に基づき居住地別の入院患者数を集計した。結果は以下の通りである。

防府市からの来院が66%と最も多く、山口・防府医療圏（防府市、山口市）からは83%の患者が来院している。

図表 市区町村別の入院患者数

所在地	延患者数	割合	累積割合
防府市	106,068	66%	66%
山口市	28,855	18%	83%
周南市	6,808	4%	88%
萩市	1,997	1%	89%
美祢市	906	1%	89%
長門市	715	0.4%	90%
その他	16,440	10%	100%
全体	161,789	100%	

(イ) 当センターの外来患者来院状況

入院患者同様に、当センターの2019年度の外来患者診療実績に基づき居住地別の外来患者数を集計した。結果は以下の通りである。

防府市からの来院が73%と最も多く、山口・防府医療圏（防府市、山口市）からは89%の患者が来院している。

図表 市区町村別の外来患者数

所在地	延患者数	割合	累積割合
防府市	141,192	73%	73%
山口市	31,796	16%	89%
周南市	6,590	3%	92%
萩市	1,086	1%	93%
美祢市	321	0.2%	93%
長門市	212	0.1%	93%
その他	13,523	6.9%	100%
合計	194,720	100%	

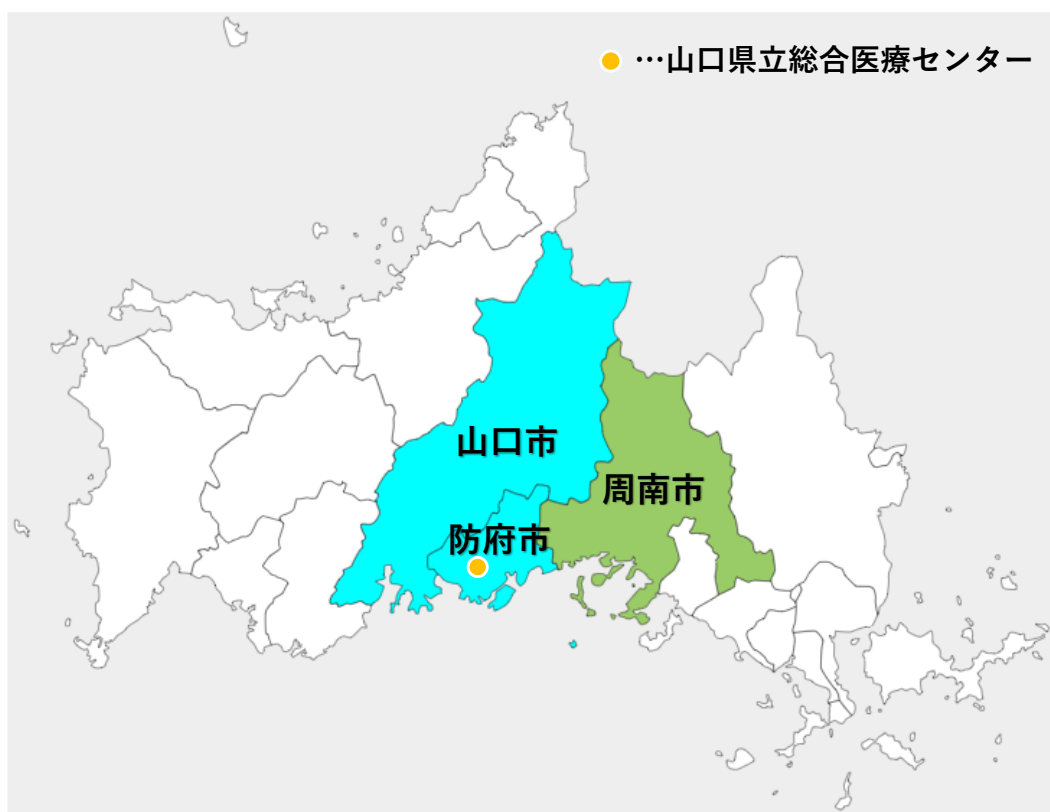
(ウ) 当センターの診療圏

上記の分析結果から、防府市・山口市の山口・防府医療圏内で入院患者、外来患者の各々80%を占める居住地であり、次いで近隣の周南市となっている為、この上位3都市を医療圏として設定した。

図表 当センターの診療圏を構成する市町村とその医療圏名

所在地	医療圏名
防府市	山口・防府医療圏
山口市	
周南市	周南医療圏

図表 診療圏における当センターの位置



② 診療科別の患者居住地割合

(ア) 入院患者居住地割合

診療圏が広域な診療科（主要診療圏 80%未満）…呼吸器・神経科・
新生児科・整形外科・小児外科

図表 診療科別入院患者居住地割合

科名	防府市	山口市	周南市	その他
呼吸器	13%	0%	0%	87%
神経科	38%	29%	0%	33%
新生児	38%	30%	5%	26%
整形	48%	14%	12%	25%
児外科	37%	18%	23%	22%
産科	58%	22%	2%	18%
形成	52%	25%	5%	18%
耳鼻科	59%	19%	5%	17%
救急科	54%	29%	2%	15%
脳外科	68%	19%	2%	11%
婦人科	66%	20%	4%	11%
血液内	61%	27%	2%	10%
腎臓内	79%	9%	4%	7%
脳内科	81%	11%	2%	6%
循環器	79%	14%	2%	6%
小児科	83%	10%	1%	6%
神経内	74%	19%	2%	5%
泌尿器	85%	8%	2%	5%
歯科	81%	14%	1%	5%
外科	81%	12%	2%	5%
眼科	63%	32%	2%	3%
内分泌	79%	15%	3%	3%
内科	79%	18%	0%	3%
消化器	80%	17%	1%	2%
心外科	82%	13%	3%	2%
皮膚科	92%	8%	0%	0%

診療圏広域

診療圏狭域

(イ) 外来患者居住地割合

診療圏が広域な診療科（主要診療圏 80%未満）…内科・小児外科・新生児科

図表 診療科別外来患者居住地割合

科名	防府市	山口市	周南市	その他
内 科	10%	39%	0%	51%
児外科	37%	24%	12%	26%
新生児	49%	24%	3%	25%
助産院	65%	18%	0%	18%
整形	62%	14%	7%	16%
形成	57%	25%	4%	14%
産 科	66%	19%	3%	13%
腎臓内	76%	11%	1%	12%
脳外科	65%	20%	5%	10%
婦人科	65%	21%	4%	10%
神経科	68%	20%	4%	8%
脳内科	72%	15%	5%	8%
神経内	73%	14%	4%	8%
リハ科	71%	13%	8%	8%
小児科	77%	14%	2%	7%
耳鼻科	77%	14%	3%	7%
血液内	73%	18%	3%	6%
皮膚科	74%	18%	2%	6%
歯 科	74%	18%	2%	6%
救急科	80%	13%	1%	6%
麻酔科	62%	29%	3%	6%
外 科	77%	14%	4%	6%
循環器	79%	14%	2%	5%
心外科	81%	13%	1%	5%
呼吸器	82%	11%	3%	5%
消化器	79%	14%	2%	4%
眼 科	73%	22%	1%	4%
内分泌	79%	16%	2%	4%
泌尿器	86%	9%	2%	2%
放 科	80%	17%	1%	2%

診療圏広域



診療圏狭域

③ 当センター診療圏における人口動態

当センター診療圏（防府市、山口市、周南市）における人口動態の結果は以下のとおりである。

今後、2020年から2045年にかけて総人口は14.6%減少する予測となっているものの、年齢区分別の推移を見ると65歳以上は0.8%増加し、さらに75歳以上では13.3%増加する結果となった。

また、2020年の高齢化率（65歳以上の構成割合）は30.7%を示しており、これは全国における高齢化率28.9%より+1.8%とやや高い結果となっている。さらには、2045年には高齢化率が36.2%（+5.5%）に増加することが推測される。

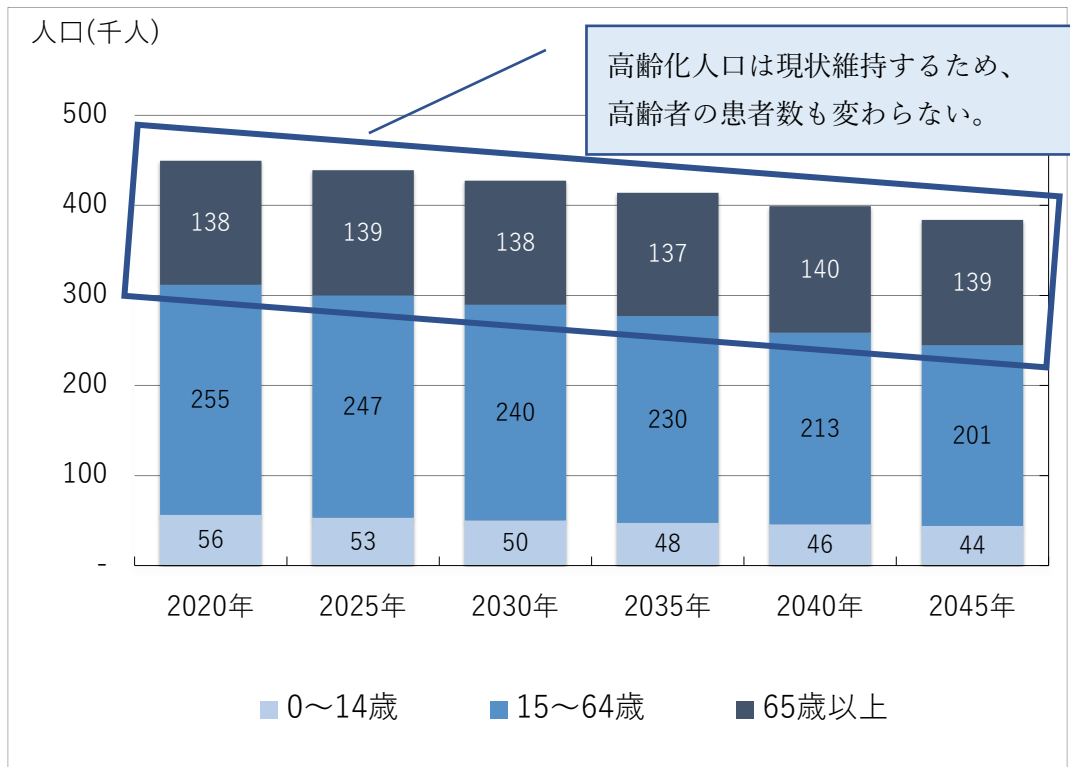
図表 当センター診療圏における将来推計人口

年齢区分	(単位：千人)						伸び率		
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2020-2025	2020-2035	2020-2045
0～14歳	56	53	50	48	46	44	▲5.7%	▲15.5%	▲21.6%
15～64歳	255	247	240	230	213	201	▲3.3%	▲10.1%	▲21.4%
65歳以上	138	139	138	137	140	139	0.8%	▲0.7%	0.8%
(再掲) 75歳以上	71	84	87	86	82	81	17.0%	20.0%	13.3%
合計	449	439	427	414	399	384	▲2.3%	▲7.9%	▲14.6%
男性	217	212	207	201	194	187	▲2.2%	▲7.4%	▲13.7%
女性	233	227	220	213	205	196	▲2.5%	▲8.4%	▲15.5%

年齢区分	構成比率					
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	12.5%	12.1%	11.7%	11.5%	11.5%	11.5%
15～64歳	56.8%	56.3%	56.1%	55.5%	53.3%	52.3%
65歳以上	30.7%	31.7%	32.2%	33.1%	35.2%	36.2%
(再掲) 75歳以上	15.9%	19.0%	20.5%	20.7%	20.6%	21.1%
合計	100%	100%	100%	100%	100%	100%
男性	48%	48%	48%	49%	49%	49%
女性	52%	52%	52%	51%	51%	51%

※参考データ：人口問題研究所「市町村別男女5歳階級別データ」（平成30年3月推計）、各市区町村ホームページ

図表 年齢3区分別人口動態推計



2. 将来の疾病推計

① 入院医療需要の疾病推計

(ア) 当センターの診療圏における入院医療需要の推計

当センターの診療圏（防府市、山口市、周南市）における1日平均入院患者数の将来推計は以下の通りである。総入院患者数において、2020年と比較して、2030年の増加率をピークに2045年までは増加傾向にあることが推測される。

図表 診療圏における傷病別の将来の医療需要（入院）

疾病大分類	患者数(単位：人/日)					
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
I 感染症及び寄生虫症	92	97	99	97	94	91
II 新生物	667	685	690	682	672	658
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	41	44	45	44	43	42
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	201	216	219	215	210	205
V 精神及び行動の障害	1,320	1,316	1,315	1,296	1,264	1,224
VI 神経系の疾患	952	1,038	1,061	1,043	1,013	993
VII 眼及び付属器の疾患	34	36	36	36	35	35
VIII 耳及び乳様突起の疾患	10	10	10	10	10	10
IX 循環器系の疾患	1,351	1,485	1,527	1,506	1,463	1,436
X 呼吸器系の疾患	493	546	562	552	535	527
X I 消化器系の疾患	288	306	311	305	297	291
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	55	59	60	59	58	58
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	367	391	396	390	380	372
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	268	288	294	290	285	279
X V 妊娠、分娩及び産じょく	53	50	48	46	44	42
X VI 周産期に発生した病態	23	21	20	20	19	18
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	16	15	15	14	14	13
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	84	93	95	94	91	89
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	820	898	919	905	876	858
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	51	53	53	51	49	47
総数	7,186	7,646	7,775	7,656	7,452	7,290
総数（分類：V、X X I 除く）	5,815	6,277	6,407	6,308	6,138	6,018

(イ) 傷病別の将来の入院医療需要の2020年からの増減率

2020年と比較した2045年の増減率では、特に循環器系疾患（循環器内科、脳神経内科、脳神経外科、心臓血管外科）、呼吸器系疾患（呼吸器内科、耳鼻咽喉科、循環器内科）の患者数は増加傾向にある。その一方、周産期系疾患（産科、婦人科、小児科、新生児科）の患者数は大きく減少する見込みとなっている。

図表 傷病別の将来の入院医療需要の2020年からの増減率

増減率

低 高

疾病大分類	2020年からの増減率				
	2025	2030	2035	2040	2045
I 感染症及び寄生虫症	5.7%	7.7%	5.9%	2.5%	▲0.1%
II 新生物	2.7%	3.6%	2.3%	0.8%	▲1.3%
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	8.1%	10.5%	8.6%	5.4%	3.3%
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	7.4%	8.8%	7.0%	4.2%	2.2%
V 精神及び行動の障害	▲0.3%	▲0.3%	▲1.8%	▲4.2%	▲7.2%
VI 神経系の疾患	9.1%	11.4%	9.6%	6.4%	4.3%
VII 眼及び付属器の疾患	5.7%	7.4%	6.3%	5.1%	3.2%
VIII 耳及び乳様突起の疾患	▲0.2%	▲1.8%	▲3.2%	▲3.1%	▲5.3%
IX 循環器系の疾患	9.9%	13.0%	11.5%	8.3%	6.3%
X 呼吸器系の疾患	10.8%	14.1%	12.1%	8.7%	7.0%
X I 消化器系の疾患	6.5%	8.0%	6.1%	3.4%	1.3%
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	6.8%	8.0%	6.4%	5.4%	4.0%
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	6.4%	7.9%	6.2%	3.5%	1.3%
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	7.4%	9.8%	8.4%	6.2%	4.3%
X V 妊娠、分娩及び産じょく	▲5.9%	▲9.9%	▲13.6%	▲16.9%	▲21.0%
X VI 周産期に発生した病態	▲8.6%	▲11.6%	▲14.4%	▲18.1%	▲22.0%
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	▲7.1%	▲10.6%	▲13.6%	▲17.3%	▲21.3%
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	10.2%	13.2%	11.3%	7.9%	5.9%
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	9.5%	12.1%	10.3%	6.8%	4.6%
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	2.2%	2.2%	▲0.7%	▲4.6%	▲8.0%
総数	6.4%	8.2%	6.5%	3.7%	1.4%
総数（分類：V、X X I 除く）	8.0%	10.2%	8.5%	5.6%	3.5%

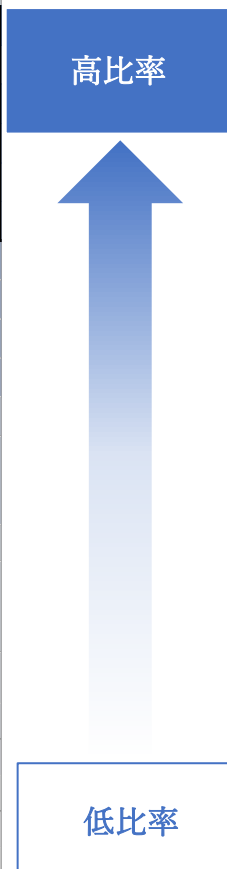
※人口問題研究所「市町村別男女5歳階級別データ」（平成30年3月推計）、厚生労働省「平成29年患者調査」参照

(ウ) 入院医療需要の推計における疾患別患者構成割合

さらに、2020年ならびに2045年の疾病推計における疾患別患者構成割合を見ると、構成割合上位疾患として循環器系疾患、神経系疾患、外傷、新生物ならびに呼吸器系疾患であることが確認された（精神及び行動の障害は除く）。

図表 傷病別の将来の入院医療需要の構成割合

疾病大分類	構成割合	
	2020年	2045年
IX 循環器系の疾患	18.8%	19.7%
V 精神及び行動の障害	18.4%	16.8%
VI 神経系の疾患	13.2%	13.6%
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	11.4%	11.8%
II 新生物	9.3%	9.0%
X 呼吸器系の疾患	6.9%	7.2%
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	5.1%	5.1%
X I 消化器系の疾患	4.0%	4.0%
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	3.7%	3.8%
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	2.8%	2.8%
I 感染症及び寄生虫症	1.3%	1.3%
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見 で他に分類されないもの	1.2%	1.2%
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	0.8%	0.8%
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0.7%	0.6%
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.6%	0.6%
X V 妊娠、分娩及び産じょく	0.7%	0.6%
VII 眼及び付属器の疾患	0.5%	0.5%
X VI 周産期に発生した病態	0.3%	0.2%
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	0.2%	0.2%
VIII 耳及び乳様突起の疾患	0.1%	0.1%
総数	100.0%	100.0%
総数（分類：V、X X I 除く）	80.9%	82.6%



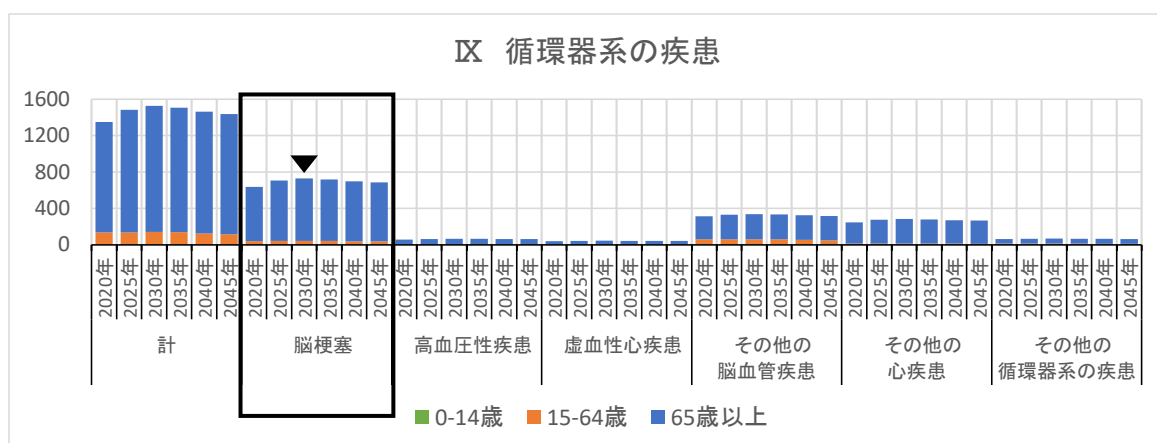
(エ) 上位疾患患者数推計

患者構成割合が大きい疾患（循環器系疾患、神経系疾患、損傷、中毒及びその他の外因の影響、新生物ならびに呼吸器系疾患）について、年齢区分別・症例別の患者数推計結果は以下の通りである。

a 循環器系疾患

循環器系疾患では脳梗塞の患者数が最も多く、2020年から2030年にかけて増加率は14.6%をピークに上昇し、その後緩やかに減少して2045年では8%増加することが予測される。

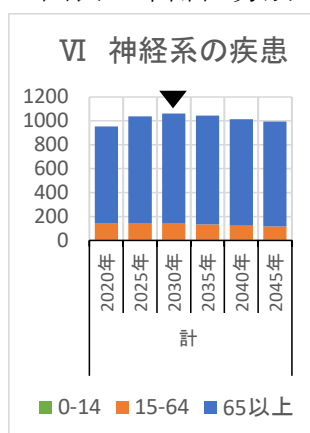
図表 年齢区分別・症例別の患者数推計



b 神経系疾患

神経系疾患の患者数は2030年の増加率11.4%をピークに上昇し、2045年では4.3%増加することが確認された。

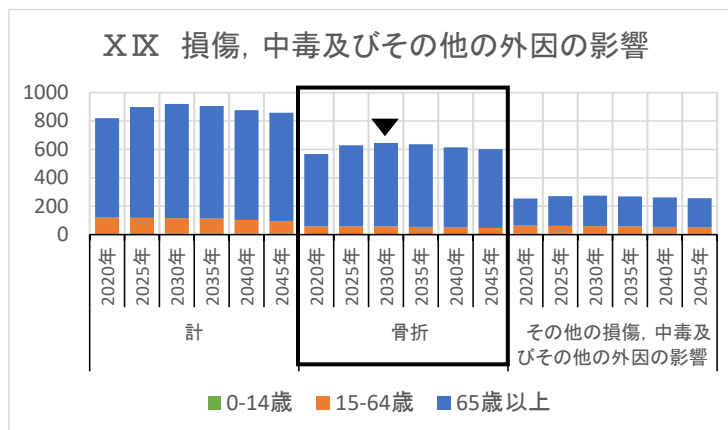
図表 年齢区分別・症例別の患者数推計



c 損傷, 中毒及びその他の外因の影響

損傷, 中毒及びその他の外因の影響においては骨折の患者数が最も多く、患者数は2030年の13.9%をピークに上昇し、2045年には6.1%の増加率となることが予測される。

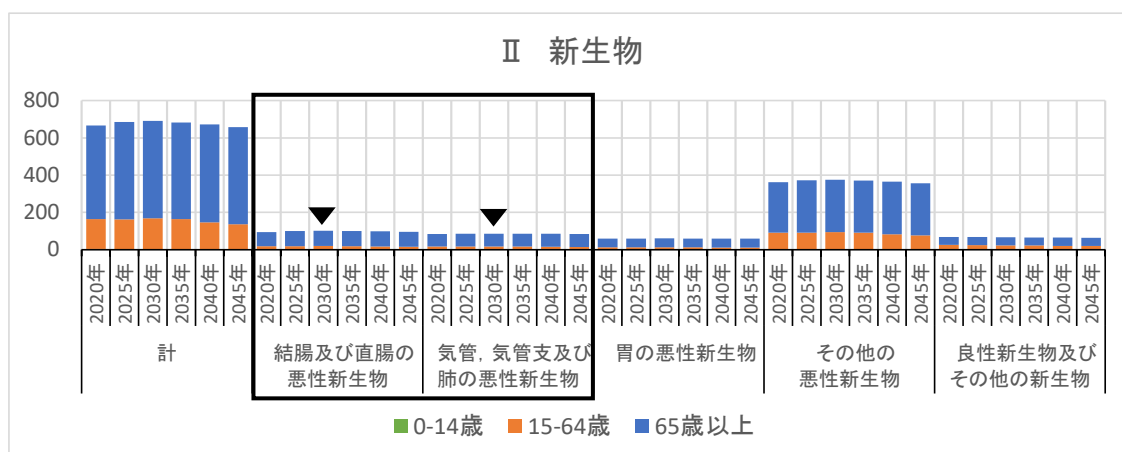
図表 年齢区分別・症例別の患者数推計



d 新生物

新生物では結腸及び直腸の悪性新生物、気管, 気管支及び肺の悪性新生物の患者数が多く、ともに2030年の増加率8.8%、2.3%をピークに上昇し、その後どちらの症例においても増加率は減少している。その後、結腸及び直腸の悪性新生物では2045年の患者数は2.3%増加し、気管, 気管支及び肺の悪性新生物では▲0.5%とやや減少することが確認された。

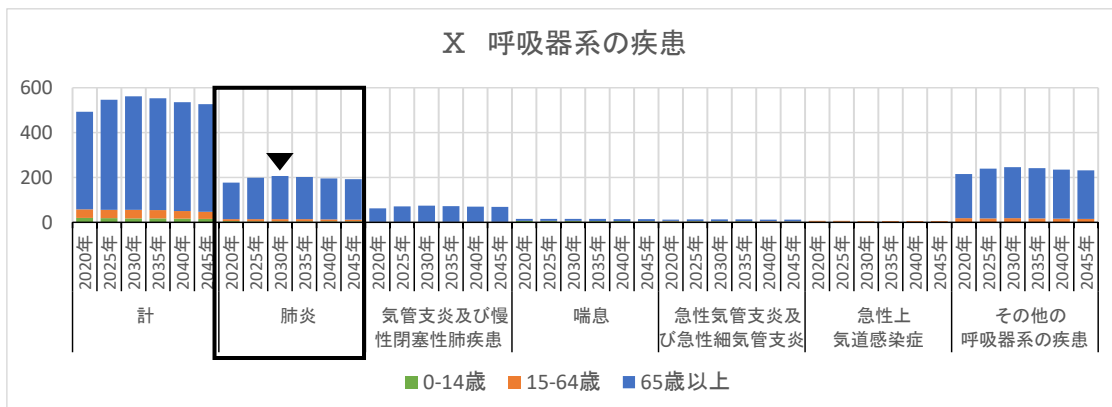
図表 年齢区分別・症例別の患者数推計 (新生物)



e 呼吸器系疾患

呼吸器系疾患では肺炎の患者数が多く、増加率は2030年の16.2%をピークに上昇し、2045年には8.7%患者数が増加することが予測される。

図表 年齢区分別・症例別の患者数推計（呼吸器系の疾患）



② 外来医療需要の疾病推計

(ア) 当センターの診療圏における外来医療需要の推計

当センターの診療圏（防府市、山口市、周南市）における1日平均外来患者数の将来推計は以下の通りである。

全体において2020年から2025年にかけて外来患者数は微増傾向であるが、2030年以降は減少することが推測される。

図表 診療圏における傷病別の将来の医療需要（外来）

疾病大分類	患者数(単位：人/日)					
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
I 感染症及び寄生虫症	665	656	642	621	602	582
II 新生物	805	805	800	786	773	752
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	89	90	87	84	81	79
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	1,625	1,648	1,659	1,636	1,598	1,550
V 精神及び行動の障害	1,293	1,252	1,211	1,169	1,117	1,069
VI 神経系の疾患	600	627	634	622	602	585
VII 眼及び付属器の疾患	1,571	1,589	1,584	1,557	1,531	1,491
VIII 耳及び乳様突起の疾患	484	476	468	455	441	426
IX 循環器系の疾患	3,658	3,794	3,830	3,785	3,731	3,652
X 呼吸器系の疾患	2,323	2,230	2,153	2,077	2,003	1,923
X I 消化器系の疾患	4,269	4,196	4,123	4,027	3,924	3,791
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	1,409	1,385	1,358	1,320	1,273	1,227
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	4,339	4,494	4,519	4,452	4,378	4,279
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	1,400	1,399	1,378	1,348	1,320	1,285
X V 妊娠、分娩及び産じょく	95	91	87	83	80	76
X VI 周産期に発生した病態	2	2	1	1	1	1
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	51	48	47	45	43	42
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	269	271	269	262	254	245
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,123	1,114	1,095	1,064	1,027	990
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	2,339	2,324	2,298	2,241	2,171	2,098
総数	28,408	28,493	28,244	27,637	26,951	26,142
総数（分類：V、X X I 除く）	24,776	24,916	24,735	24,227	23,663	22,975

(イ) 傷病別の将来の外来医療需要の2020年からの増減率

2020年と比較した2045年の増減率では、特に周産期系疾患（産科、婦人科、小児科、新生児科）の患者数は20%以上の減少となることが推測される。

図表 傷病別の将来の外来医療需要の2020年からの増減率

増減率

低 高

疾病大分類	2020年からの増減率				
	2025	2030	2035	2040	2045
I 感染症及び寄生虫症	▲1.3%	▲3.5%	▲6.6%	▲6.6%	▲12.5%
II 新生物	0.1%	▲0.5%	▲2.3%	▲2.3%	▲6.6%
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.4%	▲2.3%	▲5.9%	▲5.9%	▲12.1%
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	1.4%	2.1%	0.7%	0.7%	▲4.6%
V 精神及び行動の障害	▲3.2%	▲6.3%	▲9.6%	▲9.6%	▲17.3%
VI 神経系の疾患	4.5%	5.6%	3.7%	3.7%	▲2.5%
VII 眼及び付属器の疾患	1.2%	0.8%	▲0.9%	▲0.9%	▲5.1%
VIII 耳及び乳様突起の疾患	▲1.7%	▲3.3%	▲5.9%	▲5.9%	▲12.0%
IX 循環器系の疾患	3.7%	4.7%	3.5%	3.5%	▲0.2%
X 呼吸器系の疾患	▲4.0%	▲7.3%	▲10.6%	▲10.6%	▲17.2%
X I 消化器系の疾患	▲1.7%	▲3.4%	▲5.7%	▲5.7%	▲11.2%
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	▲1.7%	▲3.6%	▲6.3%	▲6.3%	▲12.9%
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	3.6%	4.2%	2.6%	2.6%	▲1.4%
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	▲0.1%	▲1.6%	▲3.7%	▲3.7%	▲8.2%
X V 妊娠、分娩及び産じょく	▲4.6%	▲7.8%	▲12.0%	▲12.0%	▲20.3%
X VI 周産期に発生した病態	▲8.7%	▲11.7%	▲14.4%	▲14.4%	▲22.0%
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	▲4.8%	▲8.2%	▲11.4%	▲11.4%	▲18.4%
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	0.8%	▲0.1%	▲2.7%	▲2.7%	▲8.9%
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	▲0.8%	▲2.5%	▲5.3%	▲5.3%	▲11.9%
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	▲0.6%	▲1.7%	▲4.2%	▲4.2%	▲10.3%
総数	0.3%	▲0.6%	▲2.7%	▲2.7%	▲8.0%
総数（分類：V、X X I 除く）	0.6%	▲0.2%	▲2.2%	▲2.2%	▲7.3%